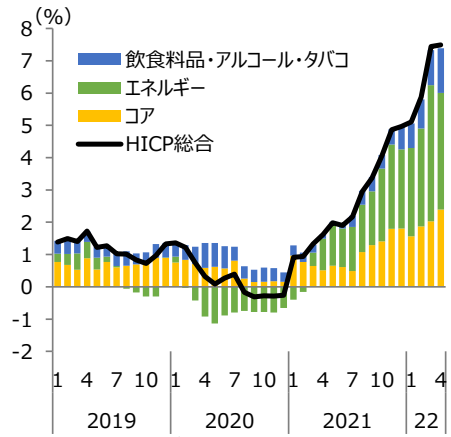
欧州

消費者物価（2022年4月）

物価上昇継続、期待インフレは2%を超える

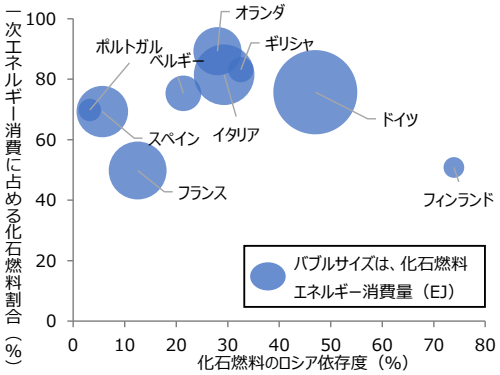
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 消費者物価（ユーロ圏、寄与度）



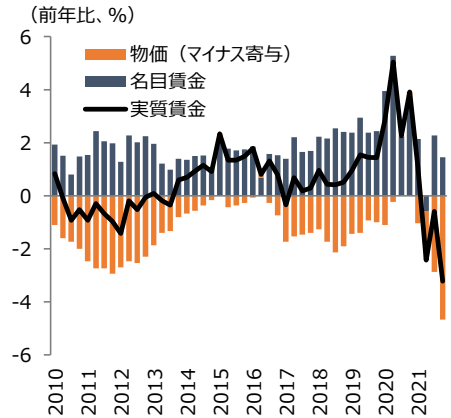
注：コアは、除くエネルギー、食料品・アルコール・タバコ。
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

2 ユーロ圏主要国の化石燃料依存度



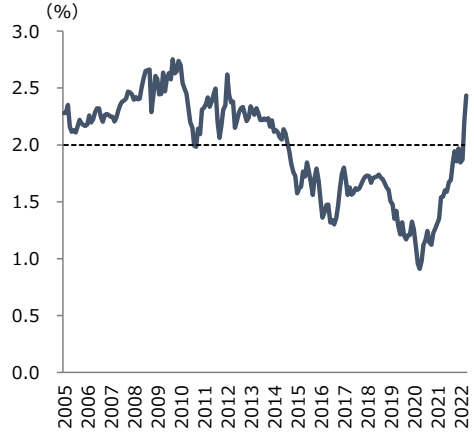
注：1次エネルギー消費はBPより。化石燃料（固形化石燃料、天然ガス、石油）のロシア依存度は、各品目のロシアからの輸入割合と１次エネルギー消費量をもとに試算。
出所：BP、Eurostatより三菱総合研究所作成

3 実質賃金



注：四半期。実質賃金は、名目賃金とHICP総合の四半期平均の伸びをもとに作成。
出所：CEICより三菱総合研究所作成

4 期待インフレ率



注：５年先５年物のスワップ金利。日次データを月次に変換。直近は22年4月。
出所：Bloombergより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 22年4月のユーロ圏の消費者物価指数（HICP、速報値）は前年同月比+7.5%。97年の統計開始以来の過去最高の伸びとなった（図表1）。
- エネルギー価格は同+38.0%と高い伸びが続いており、物価上昇の主因となっている。コア物価は、同+3.5%と3月（同+2.9%）から上昇幅が拡大し、幅広い品目で物価が上昇している。

基調判断と今後の流れ

- ユーロ圏の消費者物価は、エネルギー価格高止まりを主因に上昇が続いている。
- 先行きの注目点は、①エネルギー価格の物価への影響と、②賃金の伸びを上回る物価上昇が続くかだ。
- ①について、化石燃料の脱ロシア加速により、物価の高止まりが続くとみる。欧州委員会は、ロシアからの石炭および石油・石油製品の禁輸の方針を発表、天然ガスの禁輸も検討している。欧州の天然ガス契約の7-8割はスポット契約とされており、市況の変動を受けやすい。エネルギー消費に占める化石燃料の割合やロシア依存度は各国でばらつきがあり、ロシア依存度の高いドイツなどでは、エネルギー価格上昇による物価上昇圧力が強い状況が継続するとみる（図表2）。
- ②について、雇用環境は回復しているが、賃金の伸びは抑制されており、実質賃金はマイナスで推移している（図表3）。今後は、雇用環境の改善や最低賃金引上げなどを背景に賃金上昇圧力は強まるとみるが、物価の高止まりから、実質賃金はマイナスで推移し、欧州経済の下押し要因となるだろう。
- 欧州経済はウクライナ危機を受けた経済減速と物価高止まりリスクに直面している。市場の期待インフレ率は3月以降2%を超えている（図表4）。ECBは緩和縮小に向けた議論を加速させているが、スタグフレーション懸念もある中、難しいかじ取りが求められるだろう。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.